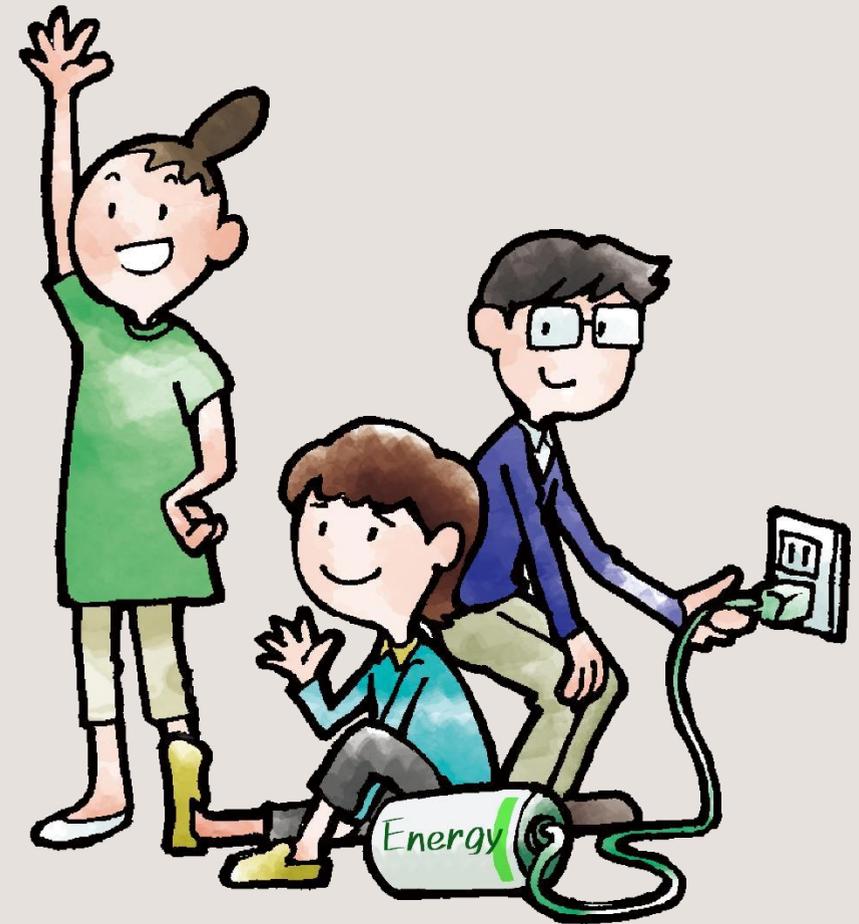


本市の不登校の課題について



長期欠席者

年間30日以上欠席があるもの

病気

病気やけがによる
入院・通院・自宅療
養等のため長期欠
席した者

経済的理由

家計が苦しく、児童
生徒が働いて家計
を助けなければな
らない等の理由で
長期欠席した者

不登校

何らかの心理的、情緒的、身体的、あ
るいは社会的要因・背景により登校
しない、あるいはしたくてもできな
い状況にあるため年間30日以上欠
席した者

その他

家庭の方針、家事
手伝い、海外渡航、
連絡先不明、感染
回避等の理由で長
期欠席した者

週に1日の欠席が続くと年間で30日程度になる
学校に定期的に来ていても、「不登校」に区分される

1 高松市の不登校の現状

同じ欠席日数でも状況が違う

●…欠席 ●…出席

●ずっと登校していたが、ある時期を境に全く学校に来ることができなくなった



●ずっと欠席していたが、学校に復帰した



●週に1回教室に登校をしている



●週に1回放課後登校をしている(人とのかわりが少ない)



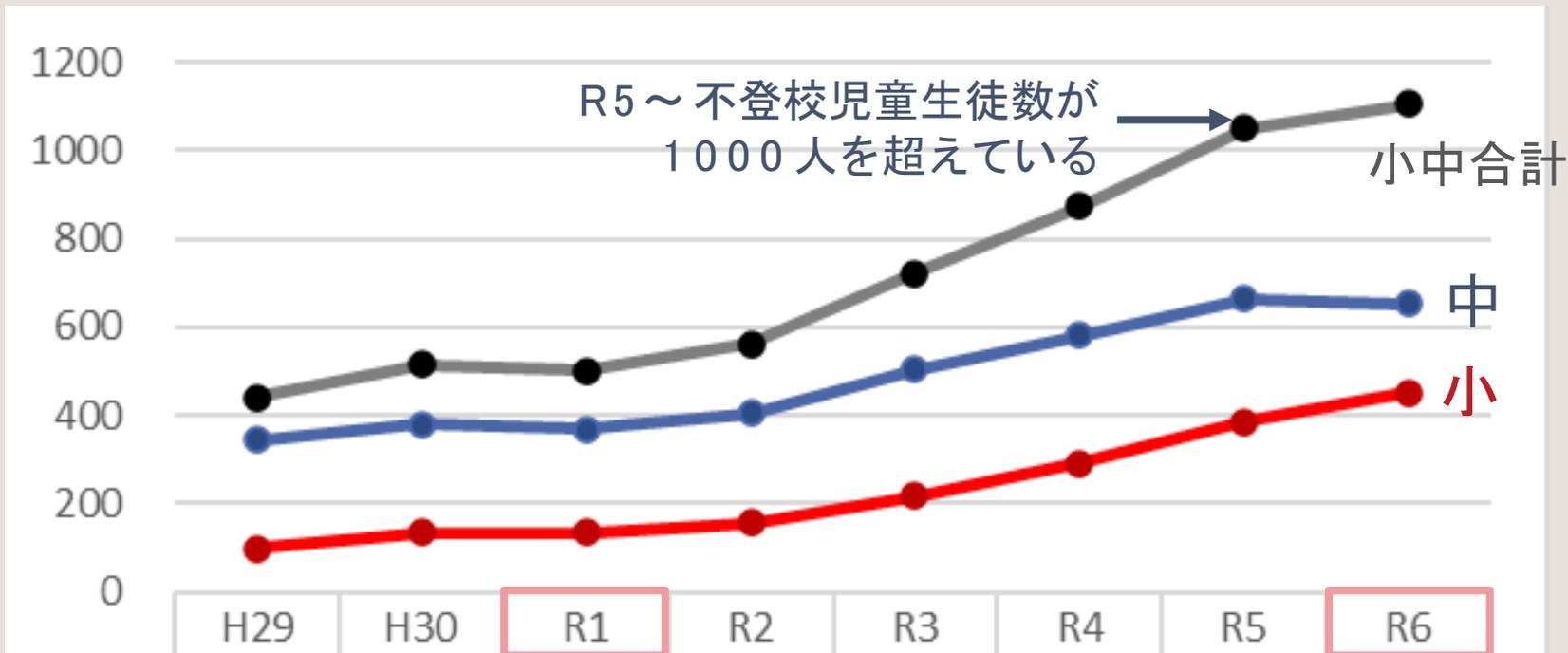
●週に1回放課後登校しつつ、教育支援センターに通っている



1

高松市の不登校の現状

高松市不登校児童生徒数



R5～不登校児童生徒数が
1000人を超えている

小中合計

中

小

↑
五月雨登校、休校などで
一時的に減少している

小中不登校児童生徒数

R1 → R6 **2.1倍**

小学校不登校児童数

R1 → R6 **3.4倍**

うち低・中学年

R1 → R6 **3.7倍**

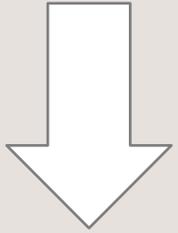
中学校不登校生徒数

R1 → R6 **1.8倍**

2 高松市の不登校の課題

現在の課題

- ・不登校の低年齢化(就学前・低・中学年の不登校)
- ・特別支援学級の児童生徒の不登校



- ・学力やコミュニケーションの不足により、
不登校状態が継続する(長期化・不登校のさらなる増加)
- ・居場所の飽和(フリースクール・教育支援センターの不足)
- ・保護者の離職、経済的・精神的負担、孤立



2 高松市の不登校の課題

今後表出すると考えられる課題

- ・進学、就職に対する制度の遅れ、地域間格差
- ・義務教育以後の支援の切れ目
(ひきこもり、相談窓口、就労支援、学び直し)
- ・福祉、医療の負担増
- ・保護者のメンタルヘルス問題
- ・学校、教職員の疲弊
- ・自殺者数の増加(ウェルビーイングの低下)



3 今後の取り組み

今後取り組む必要があること

地域で子どもを育てる

- ・地域での子どもの居場所づくり
- ・校内サポートルーム・民間施設等との連携
- ・保護者の相談窓口や学びの場

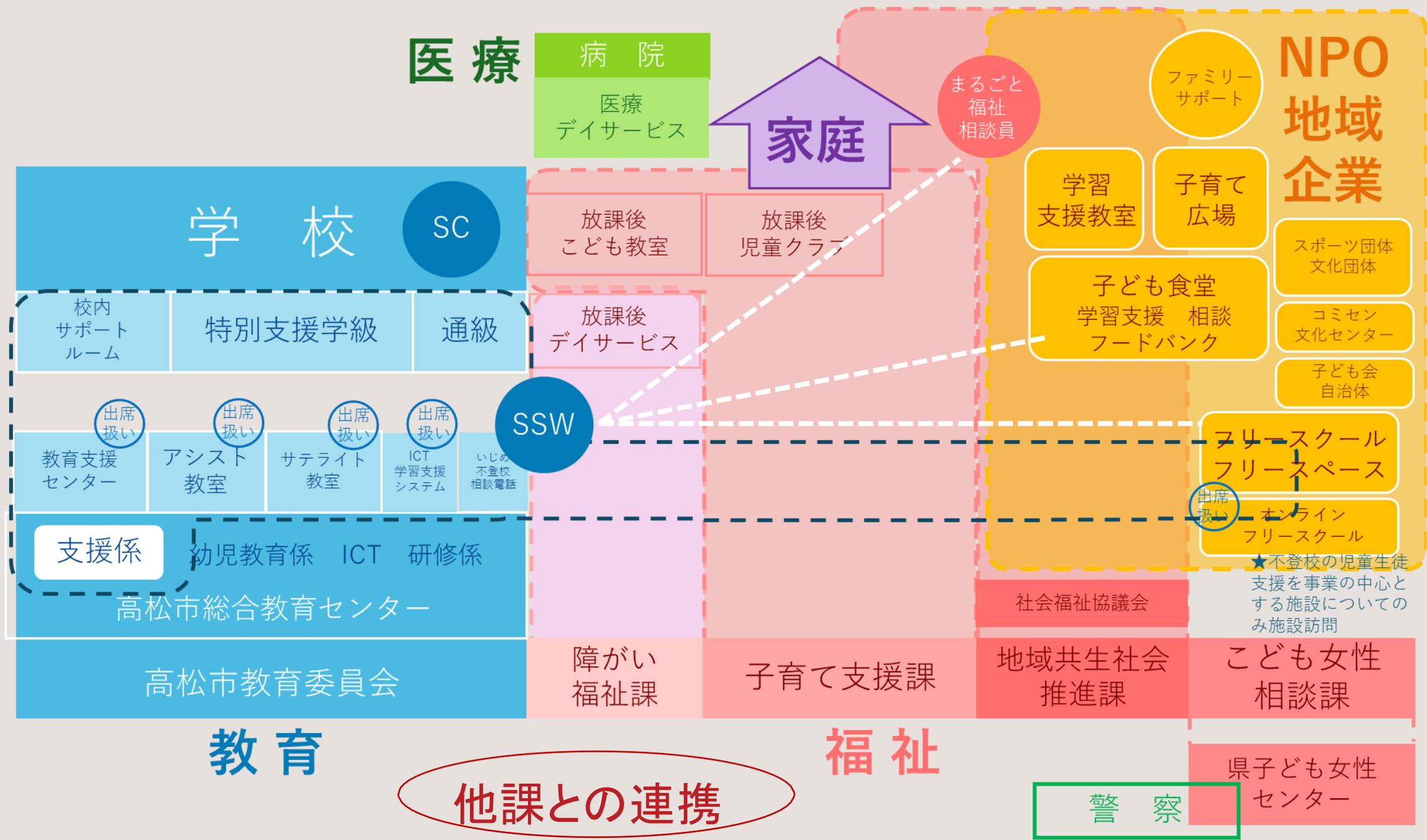
行政・教育・福祉・医療などの横のつながり

- ・支援情報の一元化
- ・切れ目のない支援(高等学校・就労支援含む)



今後の取り組み

地域で子どもを育てる



教職員研修

- ▲未然防止
- ▲教員不足
- ▲児童生徒理解・アセスメント
- ▲教室マルチリトメント
- ▲不登校対策 Co. 成
- ▲特別支援教をベースにした授業
- ▲学校の支援体制の見直し
- ▲幼小連携(スタートカリキュラム)
- ▲小中連携(情報交換)
- ▲教課程・校則等の見直し
- ▲体験活動・対話の充実

- 高松市不登校 Q&A
- 児童生徒理解支援シート ▲アセスメントの記録と共有
- 教育相談担当者研修
- 学校訪問・要請訪問
- スクールリーダー不登校 Co.研修

保護者支援

- ▲離職・孤立
- ▲必要な支援情報がいきわたらない

- 親の会 ▲地域の親の会
- 不登校を考える会
- いじめ不登校相談電話

- 保護者支援のNPO等との連携
- 福祉サービスとの連携

- SSW ▲SSW の役割理解と活用
- SSW研修会

- 健康福祉局 子ども女性相談課 子育て支援課 地域共生社会推進課

- 要対協情報交換会
- ▲個人情報共有の壁
- ▲義務教 卒業後の支援の切れ目
- ▲高校生の不登校の増加
- ▲ひきこもり

- 若者支援協議会

学びの多様な学校

塾等との連携

民間施設のガイドライン(出席認定)

KSR 研究指定(県)

地域の学習支援ボランティア等との連携

オンラインフリースクールとの連携 ▲成績への反映

フリースクールとの連携 ▲民間施設への助成 ▲家庭の負担 ▲学校の理解・連携

校内サポートルーム

▲常駐教職員配置
 子どものことをよく理解している学校の教職員による学習支援や心のサポート
 ⇒教室復帰につなげやすい
 オンライン授業
 ⇒帰属意識が高まり復帰率が高くなる

サマー・オータム(体験活動の充実)

進路説明会 進路保証

高等学校 ▲県立学校での不登校生徒受入

フレンドシップ事業

外国にルーツを持つ子どもの学習支援 日本語指導

▲学習支援
 社会復帰段階でないと支援は難しい

オンライン授業 ▲実施校が少ない

ICTを活用した学習支援システム ランドセル・デジタルスタディ

教育支援センター

▲学習支援
 ▲特別支援教の知識 少人数支援→しずく
 低・中学年支援→なないろ

情報共有

アシスト教室

▲待機児童生徒 ▲スタッフの不足

通級指導教室

▲待機児童生徒 ▲指導教員の不足

サテライト教室

▲待機児童生徒

放課後デイサービスとの連携 ▲不登校児童生徒の受け入れ ▲出席認定

▲特別支援学級の不登校児童生徒の増加

高松市の不登校施策と課題

高松市総合教育センター 支援係 R7.12.1

現在行っている施策 ▲課題
 取り組んでいないが必要

生活の環境



無気力・非行

▲アセスメント

病気



本人の特性

▲アセスメント



▲発達課題を持つ子どもへの支援スキル

警察との連携

ストレス・自殺予防を含むライフスキル教育

SC

医療との連携

支援につなげていない子どもへのアウトリーチ